

明倫短期大学学会報告

第11回（通算第94回）：2004年9月22日（水）

コミュニケーションの問題と言語聴覚士が行う援助 —ことばクリニック開設にあたって—

入山満恵子（講師，歯科衛生士学科専攻科
保健言語聴覚学専攻）

平成16年10月，本学附属歯科診療所に関係各位の多大なご協力を賜り，言語聴覚士が担当する「ことばクリニック」が開設の運びとなった。歯科に附属した専門機関の存在は大学病院を除いては稀であり，今後地域との良好な関係を保ちつつまた貢献していくことが求められる。そのことを踏まえた上で，身近な問題でありながらあまり知られていない「ことば—コミュニケーション—の問題」とそれを支援していく言語聴覚士の業務について言及した。

Training of Fingertip Tactilesensation for Scaling and Root Planing.

江川 広子（講師，歯科衛生士学科）

歯科衛生士にとって手作業は大切な技術の一つである。今日の科学・技術の発展は日常生活に便利さをもたらした反面，若者の手作業の機会を少なくし手先の器用さを低下させていると言える。歯科衛生士によるスケーリング・ルートプレーニングもその良否は，歯周治療の経過に大きな影響を与える。そこで，指頭感覚の訓練方法を開発することを目的とし，本学生を対象に成績，器用さ，性格別に分類し，指頭の感覚試験結果との相関性について調べた。その結果，同試験を反復することによって，有為に識別能が向上することが分かった。このことから将来，歯科衛生士教育実習の一部に本訓練を導入することが有効であると考えられる。

第12回（通算第95回）：2004年10月28日（木）

心の病気 ～歯科臨床から見て～

市川 伸彦（歯科医師，附属歯科診療所）

白川 淳子（歯科衛生士，附属歯科診療所）

近年，ストレス社会と言われ，様々な問題で心の病気は発現し，増加傾向にある。心の病気は決して特殊なものではなく，誰もがかかる可能性を持っている。歯科臨床においても直接的あるいは間接的に，程度の軽重はあるものの，心の病気をもった患者さんが来院する機会が増えている。歯科受診者の背景にある心の病気について，要因，症状と障害，歯科臨床例等について考察するとともに，今後の歯科臨床に役立てようと思う。

漂白処置に付随する問題点を考える — In-Office Bleachingについて —

金子 潤（助教授，歯科衛生士学科）

In-Office Bleachingに付随する問題点のひとつに漂白処置中，漂白処置後にまれに発生する疼痛症状および知覚過敏症状があげられる。この原因は高濃度過酸化水素水を歯面に作用させた際，一部がエナメル質の小柱間隙を拡散してエナメル象牙境に至り，象牙細管を通過して歯髄腔に達するためではないかと考えられている。そこでラット歯髄の各種In-Office Bleach剤による反応を病理組織学的に検討し報告した。